

DPDPとは

Disaster Prevention & Health shoes Development projectの略であり、DPDP®はパンプスに代わる働く知的な女性のための仕事用の履物として開発された多機能型健康靴のシンボルマークであり、

DPDP普及協会は防災減災多機能型健康靴の普及を目的とする一般財団法人の設立をめざしています。



道路には
ガレキが散乱すると
想定されている



靴にビニール袋をかぶせ、板をひもで縛り付けることは現実的ではない

平成27年9月1日発行の「東京防災」(東京都総務局総合防災部防災管理課刊)の196ページには足や靴をガレキから守る方法として、靴にポリ袋をかぶせ、靴底に板等をヒモで縛って固定すると書かれています。

しかしこの方法は過去の災害で実証されたものではなく、このイラストと記述にはまったく裏付けがありません。

「靴にポリ袋をかぶせ、靴底に板等をヒモで縛って固定し、足と靴を守る」ためには事前にポリ袋二枚と幅約20cm、長さ約30cmの板二枚、長さ約60cmの丈夫なヒモを用意する必要がありますが、これらの準備があったとしても歩くことができず、むしろガレキの上を歩くと不安定になり、結局、避難を遅らせ、多数の人命を失うことになりかねません。

上記の「東京防災」記載のイラストと記述は、都民と読者に対して誤った情報を与え、逆に危険性が高まるとの判断から公共の利益を守る観点から引用しております。

また、東京都発行の「東京防災」にイラストとして描かれている男性は445人であり、イラストとして描かれている女性は145人に過ぎず、女性の数は男性のわずか三分之一です。

特にこの防災マニュアルには、若い女性がほとんど登場しておらず、著しく女性を軽視した内容と言わざるを得ません。

結局、首都直下型地震を想定した東京都発行の防災マニュアルでは、パンプスやハイヒールを履いている

多くの女性の避難を想定していなかったのであり、瓦礫の上を歩いて避難するための具体的な方法や、女性に特化した避難用の履物の必要性が想定されていなかったこととなります。

山手線の乗降客が多い駅では、線路上に片足の女性用のパンプスが落ちていることがあります。

女性の多くが労災の適用範囲とみなされる通勤ラッシュの中で脱げやすいパンプスを履いていることは、企業として改善すべき問題です。

こうした問題を解消するためにはJIS規格等で厳しく規定され、単にケガをさせないための安全靴とは別に、「防災減災靴」と「健康靴」と、働く女性だけが不安定なパンプスを履いて仕事している状況を改善する「男女共同参画」をめざす「多機能型健康靴」の普及が不可欠なのです。



<http://dpdp.tokyo/>



経済産業省 認可
厚生労働省 設立認可

靴内環境歩行改善協同組合

えこる

お問合せ先
03-5834-9080